

岡山市区づくり推進事業報告書 (地域活動部門)

平成28年3月31日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ ミナミカタ
団体名 南方地区まちづくり委員会
所在地
連絡先

フリガナ
代表者氏名

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 ☒ イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	南方地区の課題掘り起し事業
事業実施区域(小学校区)	旧南方小学校区
事業実施内容	第1回の委員会において、年間の事業計画と予算案を審議した。 また527枚の回答アンケートについて、どのような方法で集計と分析作業を進めていくのか検討し、以下の手順で事業を実施していった。 ① 回答アンケートの集計作業(6月から11月) ・回答アンケートをエリア別に分類する。 ・回答アンケートに1番から527番までの通し番号を振る。 ・集計一覧表を作成し、実際の集計用紙に、アンケート用紙の回答箇所に「1」の数字を記入していく。 ・パソコンにデータ集計表を作成し、会議と会議の間で、データ化していく。 ・集計表をエリア別、年齢別に作り変える。 ・設問ごとの表を、エリア別と年齢別の2種類作成する。 ・設問ごとの表を、グラフ化していく作業に移る。 ② 10月30日、講演の集いを開催する。 ・9月18日に、 に来ていただき、アンケートの集計経過を見てもらいアドバイスを受けるとともに、意見交換をする。 ・10月30日、「みんなの集落研究所」の 講師を招いて、講演会を開催する。 ③ 分析と課題の抽出(12月から1月)

事業実施内容	・アンケート調査報告書としてグラフ化したものを配布する。 ・設問ごとに、データの分析と評価作業を行う。 ④ 校正作業（１月から２月） ・全員で手分けしながら、１月、２月の委員会および各自で分担し校正したものの回収するなど、計３回の校正作業を行う。 ・２月の委員会ではほぼ終了するが、さらに最終校正を行う。 ⑤ ３月１５日、「南方地区アンケート調査報告書」７５冊、製本完成する。 ⑥ ３月下旬、南方地区まちづくり委員会のメンバーほか、連合町内会、婦人会、愛育委員会、栄養改善協議会、コミュニティ協議会、安全安心ネットワーク、体育協会、旭公民館、岡山中央小学校、岡山中央中学校、後楽館高校などに、完成したアンケート調査報告書をお渡しする。
事業の目的とその達成状況と効果	① 事業の目的 南方地区に住む人たちはこの地域についてどう思っているのか、南方地区のコミュニティ活動、子どもたちの安全安心、交通と防犯、防災などの問題についてどう感じているのか。南方地区がどんな問題に直面しているのか。問題を解決して行くために何が必要かを考え、南方地区をより魅力的で活力のあるまち(街)にしていくことを目指している。 その最初の取り組みとして、アンケート調査の方法により、広く地域住民の声を聞いていくこととした。 本年の事業目的は、前年度の南方地区安全安心ネットワークが実施した区づくり事業を引き継ぎ、配布されたアンケートを回収し、回答アンケートの集計分析実施し、調査報告書としてまとめることである。 ② 事業の達成状況 回答アンケートのエリア別の分類、ナンバーリングの作業から始まって、各設問について一つ一つデータ化し、集計、グラフ化した。その上で分析、評価を加えてできたのが１１４ページの『２０１５年南方地区アンケート調査報告書』であり、「報告書にまとめる」という当初の目標は達成できたと考えている。 ③ 効果 「報告書」においては、①に記している４つの大きなテーマ別に、５２７名の回答者の声を、客観的なデータとして明確にすることができたと考えている。南方地区に住む方々の声を、いろいろな設問に対する答えと意見を、グラフや数値から読み取ることができる。 例えば、防災については、７７．６％が災害に対する不安を感じており、そのうちの半数が地震に対する心配であること、「自主防災会がありますか」との質問に対して「ある」との回答はわずか６．１％しかないなど、岡山市の平均データと比べても中央学区での防災組織の立ち上げ等が著しく遅れていることが明らかになった。 このようにアンケート結果を報告書としてまとめることで、地域住民の声を知り、何が問題となっているのかについて、少数の「個人的な意見」や「主観的な思い入れ」ではない意見を、客観的なデータとして認識することが可能となり、かつそれを共有化していくことができる。この点が一番重要であり、地域での合意を形成していく上で、有効な資料（説得的な資料）として活用できるのではないかと思う。

企画などの工夫と情報公開	① アンケートの集計や分析作業に関しては、経費を節減していくためにもできるだけ委員会のメンバーで行なった。 ② ただし、パソコンを使いこなす方が少なく、他方で、データの処理作業はかなり膨大であり、グラフ化の作業等もスケジュールが決まっており、スケジュールに沿ってこなしていくために、一部の入力作業に関しては外部に委託をお願いした。 ③ 地域づくりに先進的に取り組む「みんなの集落問題研究所」の■■■■■さんを講師として呼びし、9月には意見交換を行い、10月には講演の集いとして、勉強会を開催することで、視野や問題意識を広げることができたし、集計に当たっての実際的なアドバイスを受けた。 ④ できるだけ見やすく、わかりやすい報告書に仕上げることを意識した。 ⑤ 報告書として結果を広く公開する。
次年度計画	現在のところ「報告書」としてお渡しすることで、現段階での当委員会の使命は果たされたと考えている。
事業実施者としての評価・感想など	この事業は、前年度（平成26年度）の南方地区安全安心ネットワークの事業を受け継ぐものである。 前年度、安全安心ネットワークの区づくり事業としてアンケートづくりと配布の準備が進められたが、当地域としては初めての試みであり、各団体とこの事業の主旨を共有していく事の難しさを感じた。 配布されたアンケートは、多くの単位町内の会長および役員の方々のお力添えを得て、スムーズに回収を行うことができた。アンケートの回収率は、私たちの予想を超えて、25.35%に達した。 今回の南方地区まちづくり委員会の事業は、南方地区安全安心ネットワークの資金的な支援はない中で実施された。 前年度からの責任を果たすという意味では、しっかりやり遂げることができたし、「報告書」としてまとめることもできた。 しかし、一番重要なことは今後の取組みであろう。報告書にまとめられた客観的なデータから南方地区の諸課題をより判り易く整理し、南方の課題解決のための取組みやビジョンづくりに活用していくこと、こうした作業が求められる。 今後の連合町内会執行部の皆様のご活躍を心より期待して、事業報告を終えることとしたい。

収 支 決 算 書

◆ 収 入

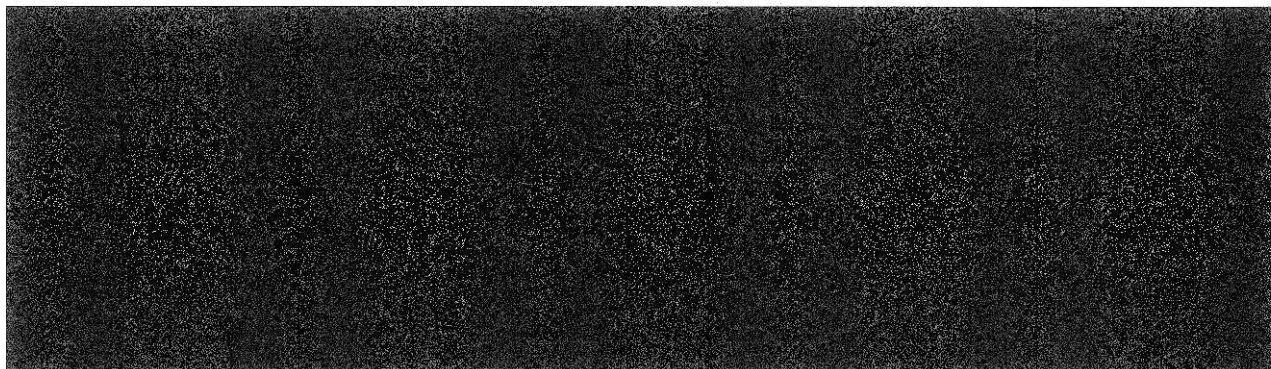
単位:円

項 目	予 算	決 算	備 考
岡山市補助金	268, 000	244, 900	(100 円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	67, 000	0	
参加者負担金	0	11, 328	
協賛金	0	40, 000	
寄付、他収入	0	10, 000	
計	335, 000	306, 228	

◆ 支 出

単位:円

項 目	予 算	決 算	備 考
消耗品費	20, 000	2, 548	フラッシュメモリー2本
食糧費	15, 000	520	会議お茶代
印刷製本費	240, 000	250, 340	コピー代 7,340 円 報告書作成費 243,000 円
通信運搬費	10, 000	120	切手
使用料	10, 000	12, 700	コミュニティハウス会議室使用料
報償費	40, 000	30, 000	講師1名
委託料	0	10, 000	データ入力委託料として 2名
計	335, 000	306, 228	



■事業実施にあたっての協働の状況

協働した団体・企業・大学等	協働した内容
南方地区婦人会	執行部から参加 講演の集いへの協力
南方地区愛育委員会	執行部から参加 講演の集いへの協力
南方地区栄養改善協議会	執行部から参加 講演の集いへの協力
南方地区体育協会	意見交換・アドバイス
旭公民館	■■■■のアドバイス、協力
みんなの集落研究所	事業に対するアドバイス 講演の集い

補助事業等の経過及び内容

[illegible]